

### 第3次空港調査の活動内容

経済学部 講師 鈴木 健司

中部国際空港でのアンケート調査は、2005年3月に第1次調査、同年9月に第2次調査を行いました。そして、本年の10月21日に第3次調査を行います。

第1次・2次調査では、中部国際空港の利用者がどのように空港を利用しているのかについて調査をしました。今回の第3次調査では、中部国際空港が開港して約1年半が過ぎた現在、知多半島の観光や産業に中部国際空港がどのような影響を与えるのかについての調査を試みます。

このような調査においては、調査結果だけに目をとられがちです。しかしながら、調査では結果だけではなく、調査を行う過程も重要なことです。なぜなら、「結果には原因がある」ように、調査結果を吟味するうえで、原因を解

明することが問題の解決につながるからです。そこで、今回の調査では、「問題を発見し、提起する」ことから学習します。そして、問題を見つけ出し、見つけ出した問題の論理的な構造化を行うことに重点を置くような調査を行います。そのためには、中部国際空港でのアンケート調査だけではなく、周辺地域の諸団体にもヒアリング調査を行います。

第3次空港調査は、経済学部教育において「論理的思考能力の確保」と「調査分析能力の向上」を図るための体験学習として位置づけました。学生の皆さんには、アンケート調査やヒアリング調査を行うことで、「できそうだ、知ったような感じ」から「できる、わかった」というように「問題を発見・提起し、調査する能力」を身につけてもらえればと思います。

#### 過去の空港調査実施状況

##### 調査対象・方法

- 空港利用者を5種類にわけ  
対面調査を実施
- ・国際線出発客 ・同到着客
  - ・国内線出発客 ・同到着客
  - ・一般利用者

- 第1次調査 (2005年3月)  
回答数：2570件
- 第2次調査 (2005年9月)  
回答数：2583件

##### 調査項目

- ▽空港利用者の消費行動
- ▽知多半島の認知度
- ▽空港の特徴
- ▽空港と地域観光について

今回は、「知多半島の観光と産業」をテーマに調査をします

### 第3次アンケート調査用紙



調査日：2006年10月21日(土)

調査員：経済学部を中心に、2～4年生30名

調査地点：中部国際空港（セントレア）アクセスプラザ



### 空港調査の事前準備活動について

中部国際空港利用者の知多地域認知度調査にあたって、常滑市、半田市の市役所商工観光課、商工会議所、観光協会のヒアリングをおこないます。

空港調査員が計6グループにわかれてそれぞれ担当者を訪問し、主に知多半島の観光及び産業活動の現状と課題について、それぞれの団体がどのような認識を持っているかを把握しようというものです。利用者側の認知度と対比させることで、いっそう課題が鮮明になってくると考えられます。



—地域を調べる・地域で考え・地域に提案する—

知多半島の古絵葉書に残された風景の現状

経済学部 助教授 曲田 浩和

現代GP「海の文化とものづくりプロジェクト」の今年のテーマは「知多半島の古絵葉書に残された風景の現状」です。戦前の風景と現在の風景は変化しているところと、変化していないところがあります。どのようなところが変化しているのか。また、これからどのような風景を残したいと思うのか。プロジェクトのメンバーと考えていきたいと考えています。

2006年9月24日、オープンキャンパスで、「知多半島らしい風景」の学生5人による報告会を行い、学生が選んだ風景を紹介しました。

今後の活動として、戦前の絵葉書と同じジャンルでの現況撮影を行います。内海地区では、地域に住む人々と一緒に作業をする予定です。

セントレア

2005年に開港した中部国際空港、これからの新しい知多半島らしい風景です。



半田・赤レンガ建物

1900年に建てられ、ビール工場として使われたレンガ造りの大型建築物です。我が国の近代建築史上の重要な遺産です。



篠島の埋め立て地

かつて海だったところが、1970年代リゾート開発で変わりました。自然を残すことと生活の改善のために開発を行うこと、これから考えなくてはならないテーマの一つです。

野間・海苔養殖

海面に海苔ひびが建てられています。セントレアの埋め立ての影響を考えるとこれからどのようにしていくのか心配です。



恋の水神社

本大学から車で約5分、大学近辺の隠れたスポットです。近年は野間灯台に勧請され、若者カップルで賑わっています。



中国人向け知多半島観光パンフレット作成の取組み

「中国人に優しいガイドブックをつくる」「学習のチャンスがある！」

福祉経営学部助教授 原田 忠直

現在の活動状況を教えてください

現在は、ガイドマップを作成するためのお店をまわっています。今回は中国人向けのガイドマップということもあり、中華料理店を中心に取材交渉から自分たちの足で取材活動をしています。



ガイドマップに載せる内容について検討しています

現在、数十店舗を取材してきたので、次にガイドマップのデザイン、写真の編集を行い、11月に行う中間発表で全57ページの日本語版のガイドマップをみなさんに見せられるように現在12名のメンバーで作業に取り組んでいます。

中国留学生の方は今回のプロジェクトに参加してどうですか

大きな都市では、既に外国人向けのガイドマップがあるかもしれませんが、知多半島全体のエリアのガイドマップは今までないので、今回のプロジェクトは大変関心を持ち、チャレンジしてみようということで参加しました。

現在は日本語版のガイドマップを作成中ですが、この作業が終わればこの内容を全て中国語に翻訳します。現在、このプロジェクトには3名の中国留学生しかいないので全ての内容を翻訳するのは大変だともいますが、何事もチャレンジしてみるということで気合が入っています。

取材交渉は大変ではなかったですか

もともと「ガイドマップ」を作るという目標があったので、最初の頃は言語の違いなどから疑問を抱いていた時がありましたが、次第にコツをつかむと順調に取材をすることができました。

このガイドマップを作成中に苦労した点・勉強になったことは何ですか

ガイドマップに載せる店は殆ど日本語の話せない中国人ばかりだったので、甘君をはじめとする留学生に通訳してもらったことで何度も助けられました。そして、取材を通じて徐々に相手が私達の活動を理解してもらい、後押ししてくれるようになるといういろいろとお話を聞くことができ、大変いい経験となりました。

(インタビューには経済学部3年松田君と同学部3年甘君が協力してくれました。)

インタビュアー：尾嶋



ガイドブック内で、使用する写真撮影。「おいしい顔」など様々な表情を役割は甘君の担当です。